

# TASCAM

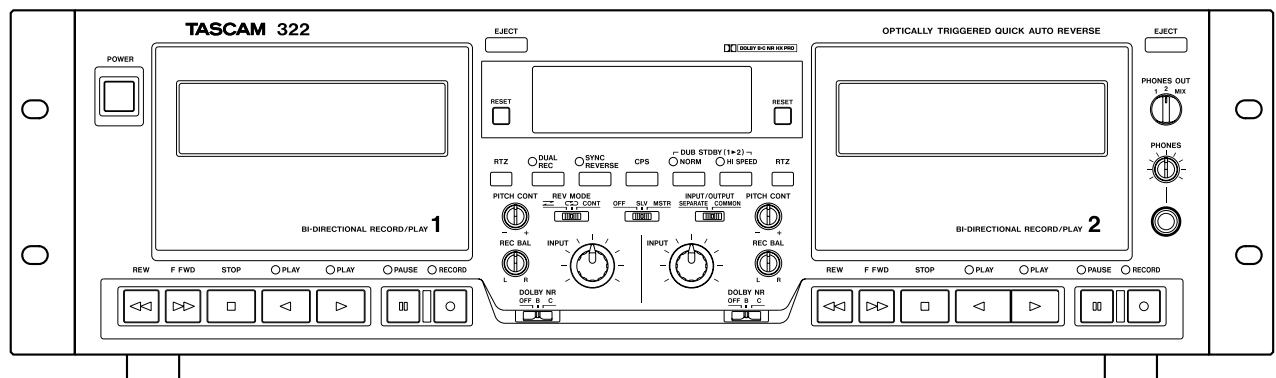
TEAC Professional Division

9101439300

# 322

## Double Auto Reverse Cassette Deck


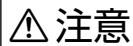
### 取扱説明書






# 安全にお使いいただくために








この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

## 表示の意味




 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。





## 絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

 <b>警告</b>	
	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店または当社サービスセンターに修理をご依頼ください。
	万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
	電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

## 安全にお使いいただくために

 警告	
	この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2 cm以上、背面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

 注意	
	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 ・湿気やほこりの多い場所 ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となります。 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

# はじめに

このたびは、TASCAM 322をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、十分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

## 目次

安全にお使いいただくために	2
はじめに	4
各部の名称と働き	6
フロントパネル	7
リアパネル	8
別売オプション	8
RC-322A リモコン	9
ブロックダイアグラム	9
基本編	10
録音	10
再生	10
ノーマルダビング	11
ハイスピードダビング	11
シンクリバースダビング	12
連続録音機能	12
連続再生機能	13
デュアル録音機能	13
応用編	14
2台以上の322の接続	14
2台以上の322を使った連続再生	14
2台以上の322を使った連続録音	15
2台以上の322を使った録音-1	15
2台以上の322を使った録音-2	16
その他の便利な機能	17
録音ミュート	17
RTZ (Return To Zero)	17
CPS (Computer-controlled Program Search)	17
メンテナンス	18
クリーニング	18
消磁	18
トラブルシューティング	18
トラブルシューティング	18
エラーメッセージ	18
仕様	19
別売アクセサリ	19

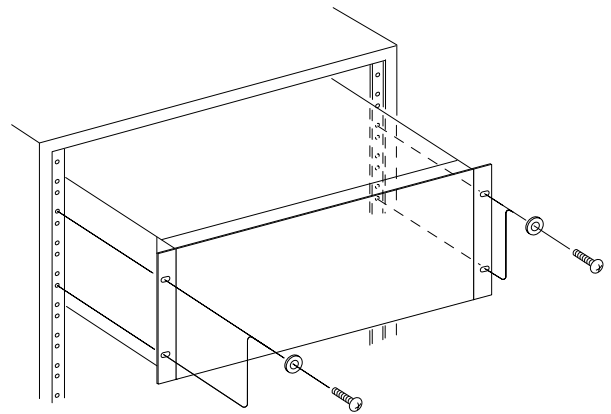
## 構成

本製品には構成は以下の通りです。

1. 322 カセットデッキ	1
2. RC-322A リモコン (5 m)	1
3. ラックマウントビスケット [ネジ (M5) × 4、ワッシャー × 4]	1

## 設置上のご注意

- 本機の動作保証温度は5度～35度です。
- 本機の動作電圧は95V～105Vです。
- 本機は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- ラックにマウントする場合は、付属のラックマウント用ねじを使って下図のように、取り付けてください。  
なお、1 U以上のスペースを本機の上に開けてください。



### 著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

## 使用上のご注意

- 本機に振動や衝撃が加わらないよう慎重に取り扱ってください。内部回路やケースが損傷する場合があります。
- パネルおよびケースの清掃には、シリコンクロスなどの柔らかい布をご使用ください。汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤液を布に含ませて軽く拭いてください。なお、シンナーやベンジンなどの溶剤は、アクリル部や塗装面が溶けたり、表示文字が消えたりすることがありますので、絶対に使用しないでください。

## 結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露した状態で本機を使うと、テープを傷める原因になります。

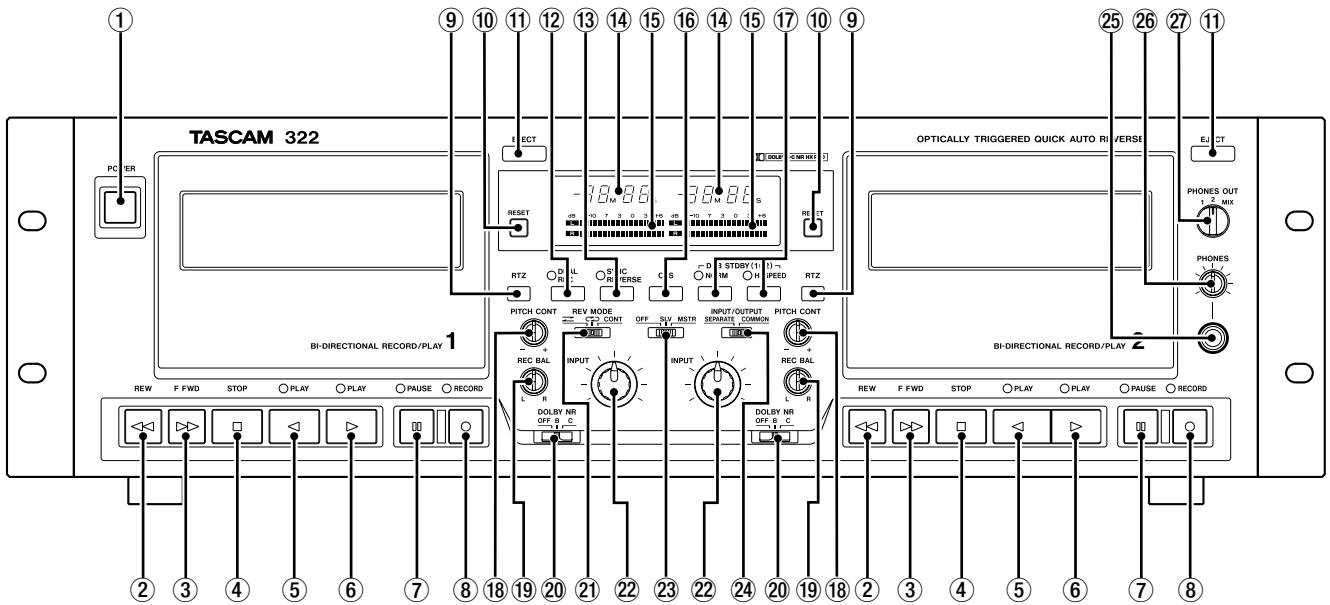
結露したときは、電源を入れたまま約1～2時間放置した後、一度電源を切り、再び電源を入れてお使いください。

## アフターサービス

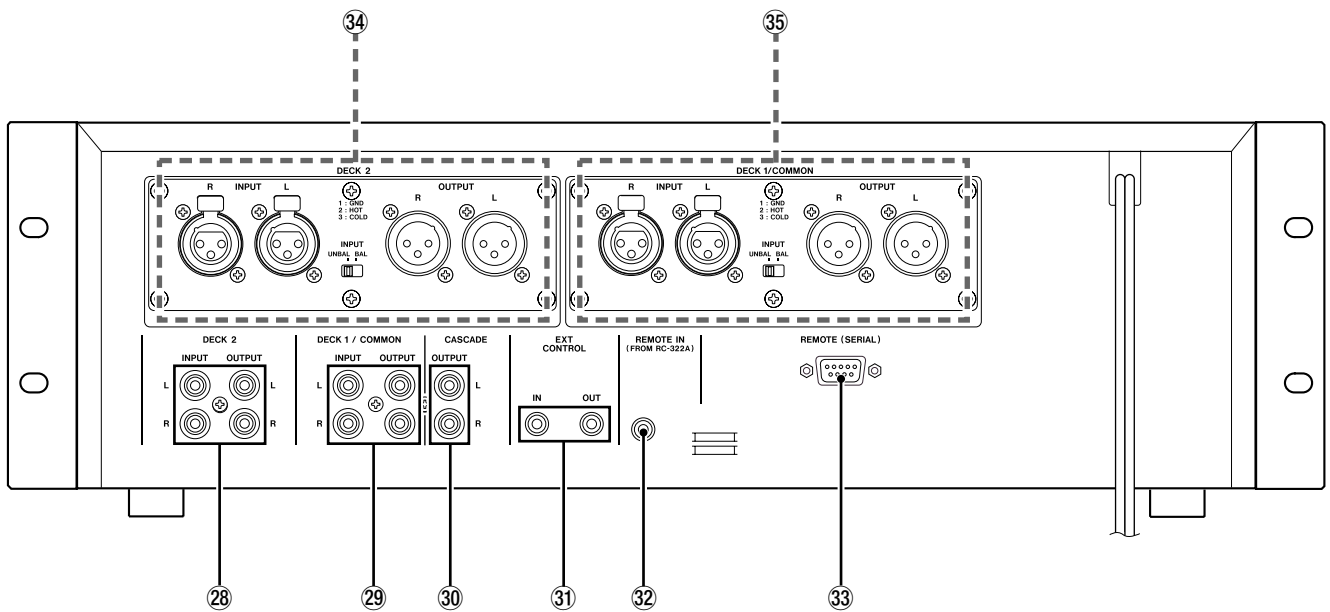
- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、記載内容をご確認の上、取扱説明書などと一緒に大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は記載内容により当社サービス機関が修理いたします。ただし、保証期間内であっても、使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、ご購入の販売店または当社営業所などにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上ご連絡ください。
  - 型名、型番 (TASCAM 322)
  - 製造番号 (Serial No.)
  - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

# 各部の名称と働き

## フロントパネル



## リアパネル



## フロントパネル

### ① POWER スイッチ

電源をオン/オフします。

### ② REW キー

◀方向にテープを早巻きします。

再生一時待機中に押すと◀方向に早送り再生できます。

### ③ F FWD キー

▶▶方向にテープを早巻きします。

再生一時待機中に押すと▶▶方向に早送り再生できます。

### ④ STOP キー

テープを停止したり、モードを解除します。

### ⑤ PLAY(◀)キー

リバーズ(◀方向)再生します。(LED点灯)

停止中はLEDが点滅します。

- フォワード側(▶)の再生一時待機中または録音一時待機中に押すと、ヘッドをリバーズ側に切り換えられます。

### ⑥ PLAY(▶)キー

フォワード(▶方向)再生します。(LED点灯)

停止中はLEDが点滅します。

- リバーズ側(◀)の再生一時待機中または録音一時待機中に押すと、ヘッドをフォワード側に切り換えられます。

### ⑦ PAUSE キー

再生または録音を一時停止します。(LED点灯)

停止中に押すと再生一時待機状態になります。

RECORD キーを押しながらこのキーを押すと、録音一時待機状態になります。

### ⑧ RECORD キー

PLAY キーを押しながらこのキーを押すと、録音が始まります。録音ミュート時にもこのキーを使います。[⇒ 10 ページ]

### ⑨ RTZ キー

テープカウンターの [0000] 付近までテープを早巻きした後停止します。[⇒ 17 ページ]

### ⑩ RESET キー

テープカウンターを [0000] にリセットします。

### ⑪ EJECT キー

テープを出し入れするときに押します。

### ⑫ DUAL REC キー

停止中に押すとデュアル録音モードになります。(LED点灯)  
[⇒ 13 ページ]

### ⑬ SYNC REVERSE キー

ダビングモードのときに押すと、シンクリバーズモードになります。(LED点灯) [⇒ 12 ページ]

### ⑭ テープカウンター

リアルタイムタイプ (XX分XX秒) のテープカウンターです。

#### ご注意

テープカウンターは時計ではありませんので、実際の録音、再生時間とは差異があります。この差異はテープの種類、長さ、ハブ径などによって異なります。

### ⑮ ピークレベルメーター

再生中は再生レベルを表示します。

録音中、録音待機中は入力レベルを表示します。

### ⑯ CPS キー

停止中、再生中、再生待機中に押すと、CPS (Computer-controlled Program Search) モードになります。

[⇒ 17 ページ]

### ⑰ DUB STDBY (1▶2) キー

**NORM:** 停止中に押すとノーマルダビングモードになります。(LED点灯) [⇒ 11 ページ]

**HI SPEED:** 停止中に押すとハイスピードダビングモードになります。(LED点灯) [⇒ 11 ページ]

### ⑱ PITCH CONT つまみ

約±10%の範囲で再生速度を変えることができます。中央の位置で通常速度になります。


### ⑲ REC BAL つまみ

左右チャンネルの録音レベルのバランスを調整します。

### ⑳ DOLBY NR スイッチ

ドルビーNR (B, C) システムを切り換えます。[OFF] の位置ではドルビーNRシステムが働きません。

### ㉑ REV MODE スイッチ

: テープの片面を再生または録音した後、停止します。

:

再生時 STOP キーを押すまで、テープの両面 (A 面 / B 面) を何回でも繰り返し再生します。

録音時 A 面と B 面 (フォワード面とリバーズ面) を一度録音した後、B 面の終わりで停止します。

- B 面 (リバーズ面) から録音を始めた場合は、B 面の終わりで停止します。続けて A 面 (フォワード面) には録音しません。

**CONT:** 連続再生や連続録音を行う場合、この位置にします。

## 各部の名称と働き

### ②② INPUTつまみ

録音レベルを調整します。

### ②③ MSTR, SLVスイッチ

OFF: 通常はこの位置にします。

SLV, MSTR: 2台以上の322を使った再生、録音を行う場合はこの位置にします。  
[⇒ 14ページ]

### ②④ INPUT/OUTPUTスイッチ

SEPARATE: DECK 1, DECK 2がそれぞれ独立して動作します。リアパネルの入出力端子も独立して使えます。ただし、連続録音またはデュアル録音のときはDECK 1に入力した信号がDECK 2にも流れます。

COMMON: REW, F FWD, STOP, PLAY PAUSE以外のモードでは、DECK 1, DECK 2は同時には動きません。

例えば、DECK 1再生中にDECK 2を再生すると、DECK 1は停止します。

リアパネルの入出力端子はDECK 1のみ有効になります。

### ②⑤ PHONES 端子

ステレオヘッドホンを接続します。

### ②⑥ PHONES つまみ

PHONES 端子から出力する信号のレベルを調整します。

### ②⑦ PHONES OUT スイッチ

- 1: DECK 1の再生音をPHONES 端子から出力します。
- 2: DECK 2の再生音をPHONES 端子から出力します。
  - 録音、録音待機中は入力信号をPHONES 端子から出力します。

MIX: DECK 1とDECK 2の再生音をミックスして、PHONES 端子から出力します。

### ③⑩ CASCADE OUTPUT (L, R) 端子

2台以上の322を使った録音を行う場合、音声信号をカスケード出力します。[⇒ 15ページ]

### ③⑪ EXT CONTROL IN, OUT 端子

2台以上の322を使った再生、録音を行う場合に接続します。  
[⇒ 14ページ]

### ③⑫ REMOTE IN 端子

RC-322A リモコンを接続します。

### ③⑬ REMOTE (SERIAL) 端子

RC-232Cの外部コントロール用端子です。外部のコントロールユニットと接続します。

---

## 別売オプション [LA-322]

---

### ③⑭ INPUT, OUTPUT (L, R) 端子 [DECK 2] および UNBAL/BAL 切換スイッチ

DECK 2のバランスタイプ入出力端子です。ピン接続は1番ピン=グランド、2番ピン=ホット、3番ピン=コールドです。端子の下にある切換スイッチを[UNBAL]にすると、アンバランス入力信号に対応します。

切換スイッチの設定に関わらず、出力端子からはバランス信号を出力します。

### ③⑮ INPUT, OUTPUT (L, R) 端子 [DECK 1] および UNBAL/BAL 切換スイッチ

DECK 1のバランスタイプ入出力端子です。ピン接続は1番ピン=グランド、2番ピン=ホット、3番ピン=コールドです。端子の下にある切換スイッチを[UNBAL]にすると、アンバランス入力信号に対応します。

切換スイッチの設定に関わらず、出力端子からはバランス信号を出力します。

---

## リアパネル

---

### ②⑧ DECK 2 INPUT, OUTPUT (L, R) 端子

DECK 2のアンバランスタイプ入出力端子です。

- INPUT/OUTPUT スイッチが[SEPARATE]側のときのみ、この端子が有効になります。

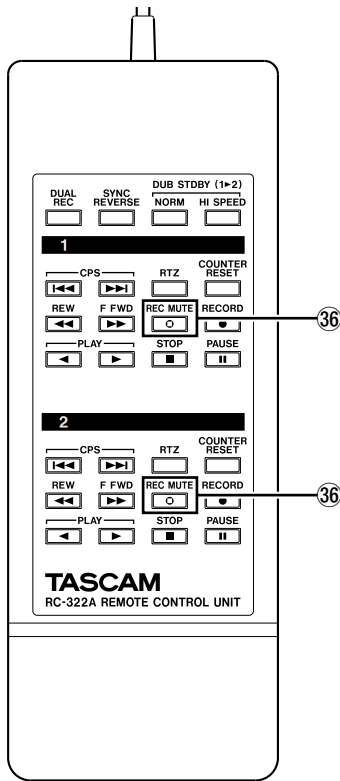
### ②⑨ DECK 1 / COMMON INPUT, OUTPUT (L, R) 端子

DECK 1のアンバランスタイプ入出力端子です。

- INPUT/OUTPUT スイッチが[COMMON]側の場合は、DECK 1とDECK 2に共通の入出力端子になります。



RC-322A リモコン



③ REC MUTEキー

録音ミュート時に使います。[⇒ 17ページ]

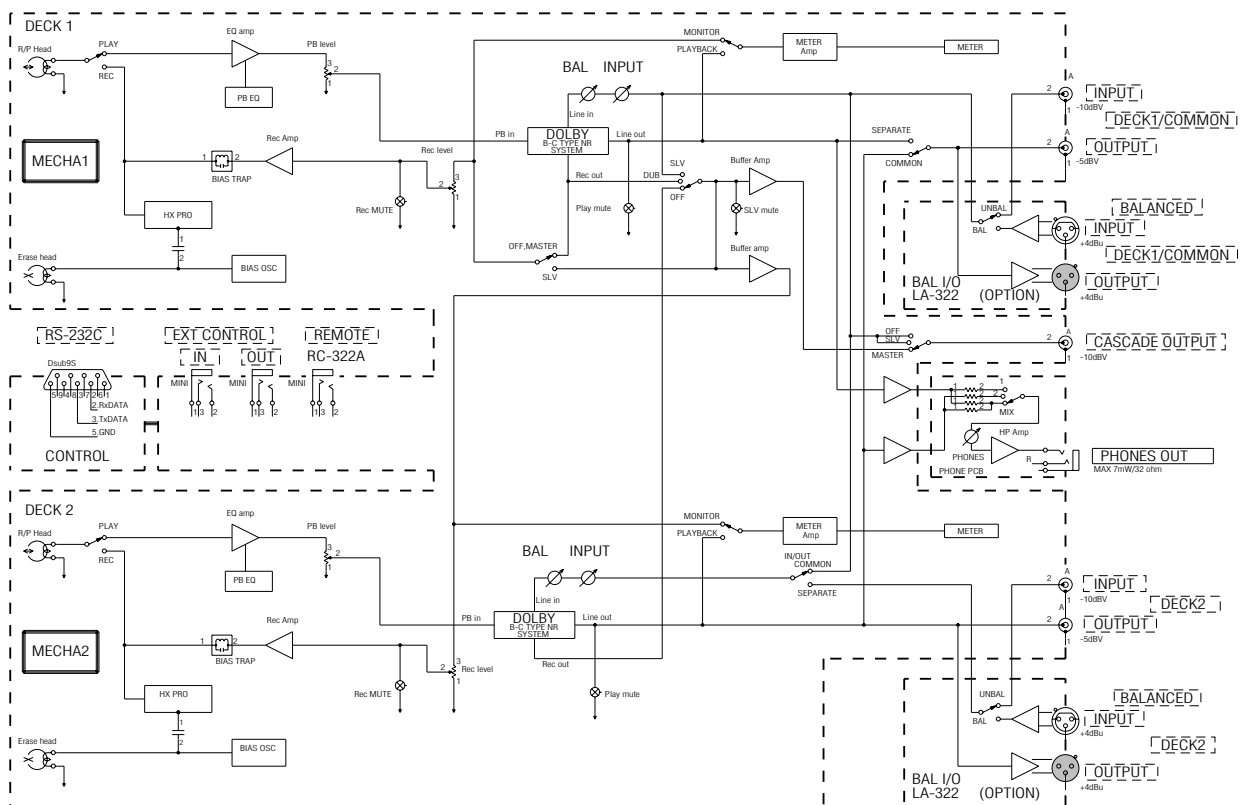
REC MUTEキー以外のキーは本体と同様に機能します。  
他のキーの説明は7,8ページをご参照ください。

で注意

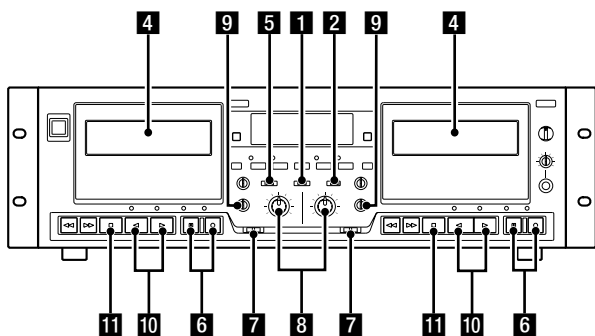
リモコンの電源は322本体から供給されますので、乾電池は必要ありません。

裏ふたは開きません。リモコンが壊れますので、無理に裏ふたを開けないでください。

ブロックダイアグラム





## 録音



- 1 322を単独（一台）でお使いになる場合は、MSTR, SLVスイッチを [OFF] にします。
- 2 INPUT/OUTPUTスイッチを [SEPARATE] 側に切り換えます。
- 3 DECK 1（またはDECK 2）のINPUT端子に入カソースを接続します。



- 4 DECK 1（またはDECK 2）に録音するテープを入れます。
- 5 REVERSEスイッチを （片面録音）または （両面録音）側にします。
- 6 RECORDキーを押しながらPAUSEキーを押して、録音一時待機状態にします。
- 7 必要に応じてDOLBY NRスイッチを設定します。
- 8 入カソースの最大値がピークレベルメーターの [0] 付近を示すように、INPUTつまみで入カソースを調整します。
- 9 REC BALつまみを使って、左右チャンネルのバランスを調整します。
- 10 PLAYキーを押して録音を始めます。
- 11 STOPキーを押して録音を停止します。

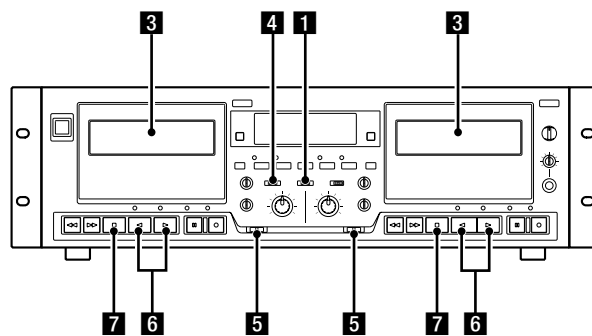
### 録音を一時待機するには

PAUSEキーを押します。  
もう一度PLAYキーを押すと、再び録音が始まります。

### 無音録音するには



ステップ8でINPUTつまみを左側いっぱいに戻してから、録音を始めます。

## 再生



- 1 322を単独（一台）でお使いになる場合は、MSTR, SLVスイッチを [OFF] にします。
- 2 DECK 1（またはDECK 2）のOUTPUT端子にモニター機器を接続します。



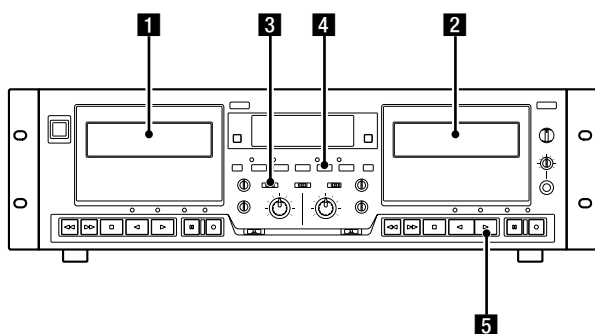
- 3 DECK 1（またはDECK 2）に再生するテープを入れます。
- 4 REVERSEスイッチを （片面録音）または （両面録音）側にします。
- 5 録音時のドルビー設定に合わせて、DOLBY NRスイッチを切り換えます。
- 6 PLAYキーを押して再生を始めます。
- 7 STOPキーを押して再生を停止します。



### 再生を一時待機するには

PAUSEキーを押します。  
もう一度PLAYキーを押すと、再び再生が始まります。

## ノーマルダビング

通常速度で、DECK 1の再生音をDECK 2にそのまま録音（ダビング）します。



- 1 DECK 1に再生用テープを入れます。
- 2 DECK 2に録音用テープを入れます。
- 3 REVERSEスイッチを （片面録音）または （両面録音）側にします。
- 4 DUB STDBY (Dubbing Standby) のNORMALキーを押します。NORMALインジケータが点灯し、DECK 1は再生一時待機状態、DECK 2は録音一時待機状態になります。

- テープ走行方向が▶"方向でないときは、PLAYキー（▶キー）を押して、DECK 1, 2ともに▶"方向に切り換えてください。
- ステップ4の状態では、DECK 1のPAUSEキー、STOPキー、F FWDキー、REWキーが機能します。

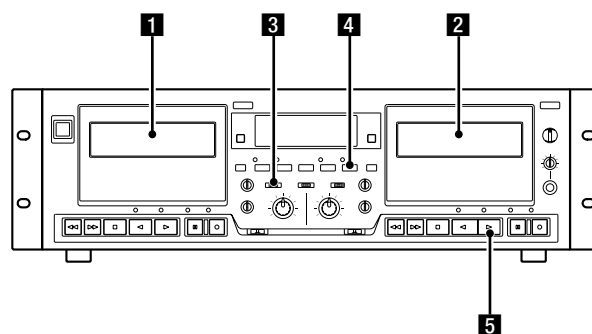
- 5 DECK 2のPLAYキーを押して、ダビングを始めます。
  - DOLBY NRスイッチや録音レベルの設定に関わらず、DECK 2に録音される内容は、DECK 1で再生される内容と同じになります。
  - DECK 1のOUTPUT端子にモニター機器を接続すれば、再生音をモニターできます。
  - ダビング中にDECK 1のPAUSEキー、STOPキー、F FWDキー、REWキーを押すとDECK 2は録音一時待機状態になります。これにより、DECK 1の再生音を編集しながら、DECK 2に録音してゆくことができます。
  - ダビング中にDECK 2のPAUSEキーを押すと、DECK 1が再生一時待機状態になります。
  - DECK 1が先にテープエンドに達すると、DECK 1は停止し、DECK 2は録音一時待機状態になります。この際、ダビングモードは継続します。
  - DECK 2が先にテープエンドに達すると、DECK 1、2ともに停止し、ダビングモードが解除されます。



## ダビングを途中で止めるには

DECK 2のSTOPキーを押します。

## ハイスピードダビング

2倍速で、DECK 1の再生音をDECK 2にそのまま録音（ダビング）します。



- 1 DECK 1に再生用テープを入れます。
- 2 DECK 2に録音用テープを入れます。
- 3 REVERSEスイッチを （片面録音）または （両面録音）側にします。
- 4 DUB STDBY (Dubbing Standby) のHI SPEEDキーを押します。HI SPEEDインジケータが点灯し、DECK 1は再生一時待機状態、DECK 2は録音一時待機状態になります。

- テープ走行方向が▶"方向でないときは、PLAYキー（▶キー）を押して、DECK 1, 2ともに▶"方向に切り換えてください。
- ステップ4の状態では、DECK 1のPLAYキー（テープ走行方向切換用）だけが機能します。STOPキーを押すと、ダビングモードが解除されます。

- 5 DECK 2のPLAYキーを押して、ダビングを始めます。
  - DOLBY NRスイッチや録音レベルの設定に関わらず、DECK 2に録音される内容は、DECK 1で再生される内容と同じになります。
  - INPUT/OUTPUTスイッチが[SEPARATE]側のときに、DECK 1のOUTPUT端子にモニター機器を接続すれば、再生音をモニターできます。
  - DECK 1またはDECK 2がテープエンドに達すると、もう一方のデッキも停止してダビングモードが解除されます。

## ダビングを途中で止めるには

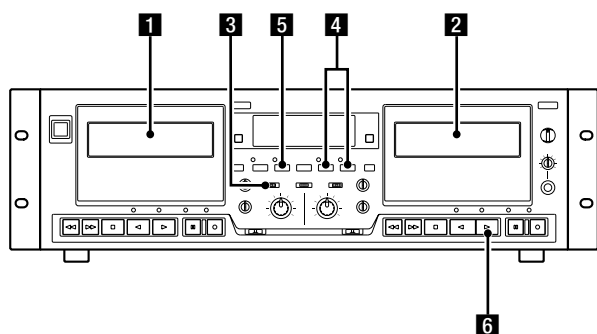
DECK 1または2のSTOPキーを押します。

## ご注意

ハイスピードダビングモードでは、編集しながら録音することはできません。

## シンクリバースダビング

B面の頭を合わせて、通常速度または2倍速で録音（ダビング）します。



- 1 DECK 1 に再生用テープを入れます。
- 2 DECK 2 に録音用テープを入れます。
- 3 REVERSE スイッチを (両面録音) 側にします。
- 4 DUB STDBY (Dubbing Standby) の NORMAL キーまたは HI SPEED キーを押します。該当するインジケータが点灯し、DECK 1 は再生一時待機状態、DECK 2 は録音一時待機状態になります。

- テープ走行方向が ▶ "方向でないときは、PLAY キー (▶ キー) を押して、DECK 1, 2 ともに "▶" 方向に切り換えてください。"▶" 方向でない場合、シンクリバースダビングはできません。
- ステップ4の状態では、DECK 1 のPLAY キー (テープ走行方向切換用) だけが機能します。STOP キーを押すと、ダビングモードが解除されます。

- 5 SYNC REVERSE キーを押します。SYNC REVERSE インジケータが点灯して、シンクリバースモードになります。
- 6 DECK 2 のPLAY キーを押して、ダビングを始めます。
  - ・ 先におもて面のテープエンドに達したデッキは、もう一方のデッキがテープエンドに達するまで、一時待機状態で待機します。
  - ・ もう一方のデッキがテープエンドに達すると、裏面に切り換わりダビングを再開します。
  - ・ どちらか一方が裏面のテープエンドに達すると、ダビングを終了し、シンクリバースモードが解除されます。

### ノーマルダビングの場合

- ダビング中に DECK 1 のSTOP キーを押すと、DECK 2 が録音一時待機状態になり、シンクリバースモードは解除されます。
- ダビング中に DECK 2 のSTOP キーを押すと、シンクリバースモードとダビングモードが解除されます。

### ハイスピードダビングの場合

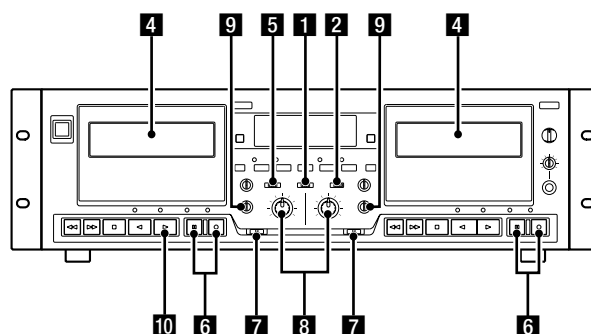
- ダビング中に DECK 1 または DECK 2 のSTOP キーを押すと、シンクリバースモードとダビングモードが解除されます。

### ダビングを途中で止めるには

DECK 1 または 2 のSTOP キーを押します。

## 連続録音機能

DECK 1 のテープの録音が終わると、DECK 2 のテープの録音が始まります。



- 1 322 を単独 (一台) でお使いになる場合は、MSTR, SLV スイッチを [OFF] にします。
- 2 INPUT/OUTPUT スイッチを [SEPARATE] 側に切り換えます。
- 3 DECK 1 のINPUT 端子に入カソースを接続します。DECK 1 のINPUT 端子に入力した信号は、DECK 2 にも流れますので、DECK 2 のINPUT 端子へソースを接続する必要はありません。

INPUT



- 4 DECK 1 と DECK 2 に録音するテープを入れます。
- 5 REVERSE スイッチを [CONT] 側にします。
- 6 両デッキ (DECK 1 と DECK 2) のRECORD キーを押しながら PAUSE キーを押して、録音一時待機状態にします。
- 7 必要に応じて DOLBY NR スイッチを設定します。
- 8 入カソースの最大値がピークレベルメーターの [0] 付近を示すように、INPUT つまみで入カソースを調整します。
- 9 REC BAL つまみを使って、左右チャンネルのバランスを調整します。
- 10 DECK 1 のPLAY キーを押して録音を始めます。DECK 1 が裏面のテープエンドに達すると、自動的に DECK 2 が録音を開始します。DECK 2 が裏面のテープエンドに達すると、録音を終了します。

### 録音を一時待機するには

録音中のデッキのPAUSE キーを押します。

### 録音を止めるには

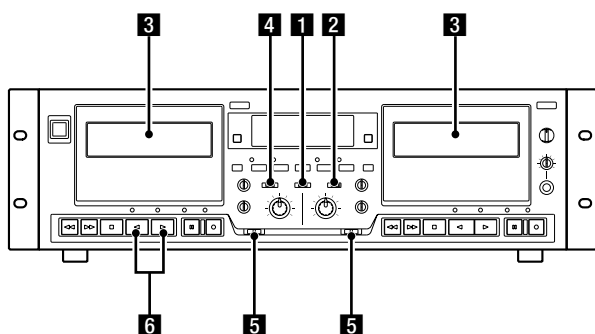
録音中のデッキのSTOP キーを押します。

### ご注意

INPUT/OUTPUT スイッチが [COMMON] 側の場合、連続録音機能は動きません。

## 連続再生機能

DECK 1 のテープの再生が終わると、DECK 2 のテープの再生が始まります。



- 1 322 を単独（一台）でお使いになる場合は、MSTR, SLV スイッチを [OFF] にします。
- 2 INPUT/OUTPUT スイッチを切り換えます。
  - [SEPARATE] 側にしたときは、DECK 1 と DECK 2 の OUTPUT 端子をそれぞれモニター機器に接続します。
  - [COMMON] 側にしたときは、DECK 1 の OUTPUT 端子をモニター機器に接続します。
- 3 DECK 1 と DECK 2 に再生するテープを入れます。
- 4 REVERSE スイッチを [CONT] 側にします。
- 5 録音時のドルビー設定に合わせて、DOLBY NR スイッチを切り換えます。
- 6 DECK 1 の PLAY キーを押して再生を始めます。DECK 1 が裏面のテープエンドに達すると、自動的に DECK 2 が再生を開始します。
  - どちらかのデッキの STOP キーを押すまで連続再生が続きます。

### 再生を一時待機するには

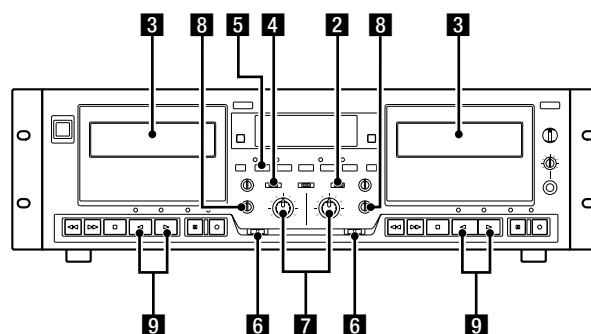
PAUSE キーを押します。  
もう一度 PLAY キーを押すと、再び再生が始まります。

### 再生を止めるには

再生中のデッキの STOP キーを押します。

## デュアル録音機能

入力ソースを DECK 1 と DECK 2 のテープに同時に録音します。



- 1 DECK 1 の INPUT 端子に入力ソースを接続します。
 

INPUT
- 2 INPUT/OUTPUT スイッチを [COMMON] 側に切り換えます。
- 3 DECK 1 と DECK 2 に録音用テープを入れます。
- 4 REVERSE スイッチを （片面録音）または （両面録音）側にします。
- 5 DUAL REC キーを押します。  
DUAL インジケーターが点灯し（デュアル録音モード）、DECK 1 と DECK 2 が録音一時待機状態になります。
- 6 必要に応じて DOLBY NR スイッチを設定します。
- 7 入力ソースの最大値がピークレベルメーターの [0] 付近を示すように、INPUT つまみで入力ソースを調整します。
- 8 REC BAL つまみを使って、左右チャンネルのバランスを調整します。
- 9 DECK 1 または DECK 2 の PLAY キーを押します。  
DECK 1 と DECK 2 の録音が同時に始まります。  
DECK 1 または DECK 2 のどちらかがテープエンドに達すると、両デッキの録音が終了し、デュアル録音モードが解除されます。

### 録音を途中で止めるには

DECK 1 または 2 の STOP キーを押します。

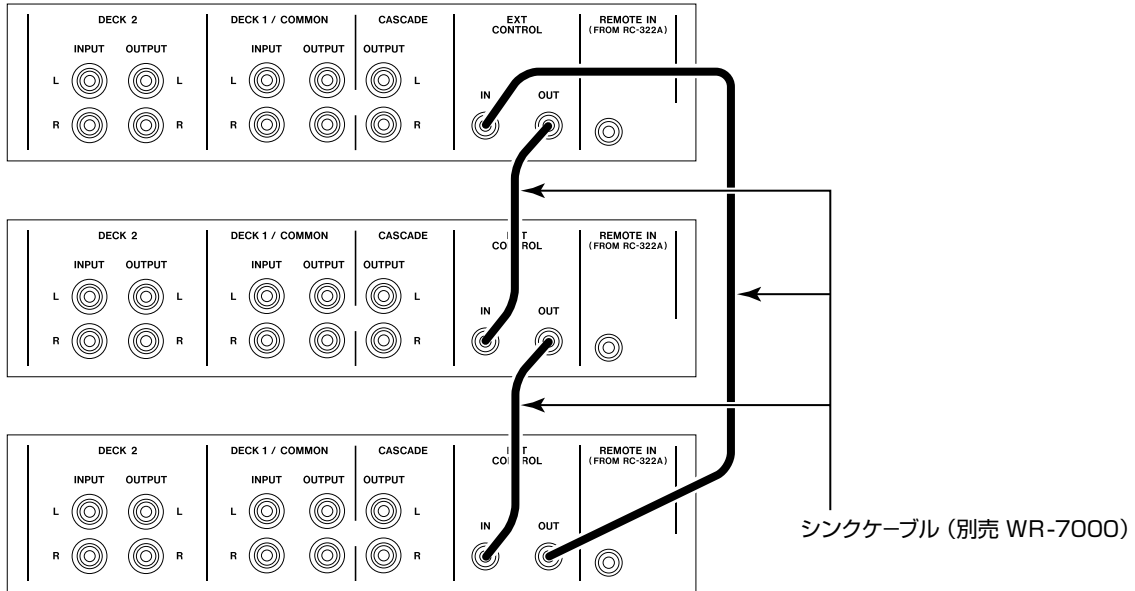
### ご注意

DECK 2 の INPUT 端子に入力ソースを接続しても、録音はできません。

322を2台以上お使いになれば、入力ソースやテープ再生音をいろいろな組み合わせで再生、録音することができます。

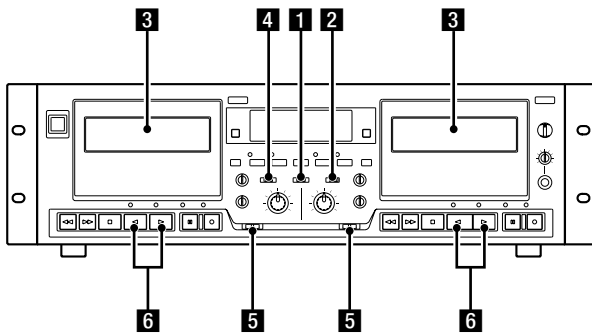
## 2台以上の322の接続

2台以上の322をお使いになる場合は、下のイラストのように接続してください。  
最大10台まで322を接続することができます。



## 2台以上の322を使った連続再生

ここでは先ず、1台目の322に続けて2台目の322を再生する場合、を説明します。



- 1 2台の322のMSTR, SLVスイッチを [OFF] 側にします。
- 2 2台の322のINPUT/OUTPUTスイッチを切り換えます。

- [SEPARATE] 側にしたときは、  
DECK 1とDECK 2のOUTPUT端子をそれぞれモニター機器に接続します。
- [COMMON] 側にしたときは、  
DECK 1のOUTPUT端子をモニター機器に接続します。

- 3 2台の322のDECK 1とDECK 2に再生するテープを入れます。
- 4 2台の322のREVERSEスイッチを [CONT] 側にします。
- 5 録音時のドルビー設定に合わせて、DOLBY NRスイッチを切り換えます。
- 6 いずれかの322のデッキの、DECK 1またはDECK 2のPLAYキーを押して再生を始めます。  
1台目のDECK 1、DECK 2が裏面のテープエンドに達すると、自動的に2台目のDECK 1が再生を始めます。2台目の322のDECK 2が裏面のテープエンドに達すると、1台目のDECK 1に戻って再び再生を続けます。

### 再生を一時待機するには

- PAUSEキーを押します。
- もう一度PLAYキーを押すと、再び再生が始まります。

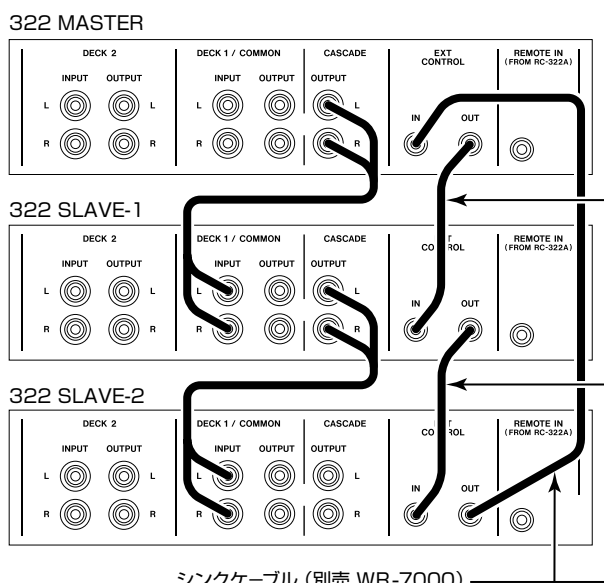
### 再生を止めるには

- 再生中のデッキのSTOPキーを押します。

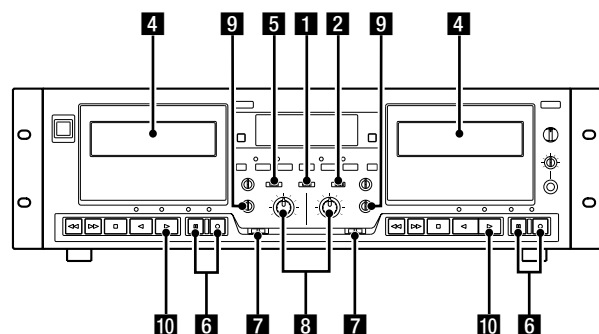
### ご注意

- テープが入っていないデッキがあると、そのデッキの順番になると同時に連続再生が終了します。

## 2台以上の322を使った連続録音



はじめに、1台目の322の入力ソースを、続けて2台目の322に録音する場合を説明します。



- 1 2台の322のMSTR, SLVスイッチを [OFF] 側にします。
- 2 INPUT/OUTPUTスイッチを [SEPARATE] 側に切り換えます。
- 3 1台目の322のDECK 1のINPUT端子に入力ソースを接続します。



- 4 2台の322のDECK 1とDECK 2に録音するテープを入れます。
- 5 2台の322のREVERSEスイッチを [CONT] 側にします。
- 6 すべてのデッキのRECORDキーを押しながらPAUSEキーを押して、録音一時待機状態にします。
- 7 必要に応じてDOLBY NRスイッチを設定します。
- 8 入力ソースの最大値がピークレベルメーターの [0] 付近を示すように、INPUTつまみで入力ソースを調整します。
- 9 REC BALつまみを使って、左右チャンネルのバランスを調整します。

- 10 1台目の322のDECK 1またはDECK 2のPLAYキーを押して録音を始めます。

1台目のDECK 1、DECK 2が裏面のテープエンドに達すると、自動的に2台目のDECK 1が録音を始めます。2台目の322のDECK 2が裏面のテープエンドに達すると、1台目のDECK 1に戻って再び録音を続けます。

### 録音を一時待機するには

録音中のデッキのPAUSEキーを押します。

### 録音を止めるには

録音中のデッキのSTOPキーを押します。

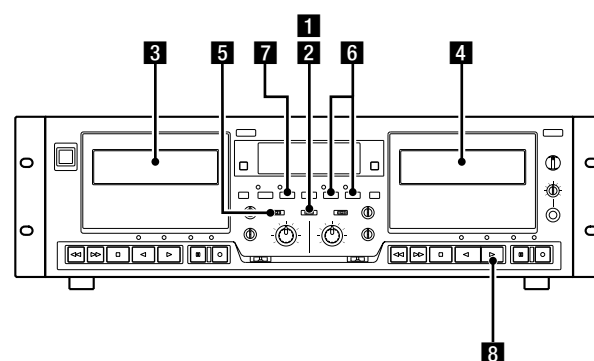
### ご注意

- テープが入っていないデッキや録音一時待機状態になっていないデッキがあると、そのデッキの順番になると同時に連続録音が終了します。
- 一度録音を終了したデッキは停止状態になります。このデッキでさらに連続録音を続けたい場合は、新しいテープに取り換えてから録音一時待機状態にしてください。
- INPUT/OUTPUTスイッチが [COMMON] 側の場合、連続録音機能は動きません。

## 2台以上の322を使った録音 - 1

次に、1台目（マスター機）の322のDECK 1の再生音を、マスター機のDECK 2と2台目（スレーブ機）の322に録音する場合、を説明します。

ここでは、同時にシンクリバースダビング機能を使って、B面の頭を合わせて録音してみます。




- 左のイラストのように接続します。
- 1 1台目の322（マスター機）のMSTR, SLVスイッチを [MSTR]（マスター）側にします。（2台以上の322をマスターに設定しないでください。）

**2** 2台目の322（スレーブ機）のMSTR, SLVスイッチを[SLV]（スレーブ）側にします。（2台以上の322を接続する場合、2台目の以降の322はすべてスレーブ機に設定します。）1台目のDECK 2がスレーブ機のマスターになります。すなわち、1台目のDECK 2のテープ走行キー（PLAYキー、REWキーなど）を押すと、スレーブ機のDECK 1とDECK 2も同じ動きをします。

**3** マスター機のDECK 1に再生用テープを入れます。

**4** その他のデッキに録音用テープを入れます。

- 録音用テープが入っていないデッキがあっても問題ありません。

**5** すべての322のREVERSEスイッチを （両面録音）側にします。

**6** DUB STDBY (Dubbing Standby) のNORMALキーまたはHI SPEEDキーを押します。マスター機の該当するインジケータが点灯し、マスター機のDECK 1は再生一時待機状態、その他のデッキは録音一時待機状態になります。

- テープ走行方向が"▶"方向でないときは、PLAYキー（▶キー）を押して、すべてのデッキを"▶"方向に切り換えてください。スレーブ機の走行方向は、マスター機のDECK 2の▶キーで切り換えられます。

**7** マスター機のSYNC REVERSEキーを押します。SYNC REVERSEインジケータが点灯して、シンクリバースモードになります。スレーブ機のSYNC REVERSEインジケータは点滅を始めます。

**8** マスター機のDECK 2のPLAYキーを押して、ダビングを始めます。

- DOLBY NRスイッチや録音レベルの設定に関わらず、録音される内容は、DECK 1で再生される内容と同じになります。
- マスター機のDECK 1のOUTPUT端子にモニター機器を接続すれば、再生音をモニターできます。ただし、ハイスピードダビングのときは、INPUT/OUTPUTスイッチを[SEPARATE]側にしておく必要があります。
- マスター機のDECK 1がテープエンドに達すると、他のデッキも停止してダビングモードが解除されます。

## ダビングを途中で止めるには

マスター機のDECK 2のSTOPキーを押します。

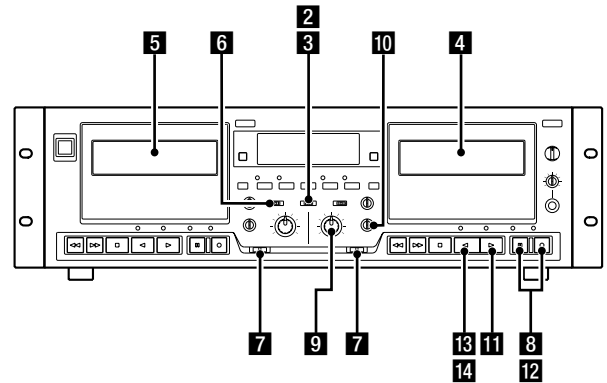
### ご注意

スレーブ322のSTOPキーを押すと、押されたデッキはスレーブ対象から外れます。この場合は、テープカウンターに"-----"が表示されます。

もう一度、スレーブ機に戻す場合は、EJECTキーを押してカセットホルダーを一度開けてから、再度カセットホルダーを閉めます。

## 2台以上の322を使った録音 - 2

1台目（マスター機）の入カソースをマスター機のDECK 2と2台目（スレーブ機）の322に録音する場合、を説明します。同時にシンクリバースダビング機能を使って、B面の頭を合わせて録音してみます。



- 15ページのイラストのように接続します。
- この場合は、マスター機のDECK 1は使用しません。
- この場合INPUT/OUTPUTスイッチの設定は関係ありません。

**1** 1台目の322（マスター機）のDECK 2のINPUT端子に入カソースを接続します。




**2** マスター機のMSTR, SLVスイッチを[MSTR]（マスター）側にします。

**3** その他のデッキのMSTR, SLVスイッチを[SLV]（スレーブ）側にします。マスター機のDECK 2がスレーブ機の「マスター」になります。すなわち、マスター機のDECK 2のテープ走行キー（PLAYキー、REWキーなど）を押すと、スレーブ機のDECK 1とDECK 2も同じ動きをします。

**4** マスター機のDECK 2に録音用テープを入れます。

**5** その他のデッキに録音用テープを入れます。

- スレーブ機にはテープが入っていないデッキがあっても問題ありません。

**6** すべての322のREVERSEスイッチを （片面録音）側にします。

**7** 必要に応じてDOLBY NRスイッチを設定します。

**8** マスター機のDECK 2のRECORDキーを押しながらPAUSEキーを押します。すべてのスレーブデッキが録音一時待機状態になります。

- テープ走行方向が"▶"方向でないときは、PLAYキー（▶キー）を押して、すべてのデッキを"▶"方向に切り換えてください。スレーブ322の走行方向は、マスター322のDECK 2の▶キーで切り換えられます。



- 9** マスター機のDECK 2の入カソースの最大値がピークレベルメーターの [0] 付近を示すように、INPUTつまみで入力ソースを調整します。
- 10** マスター機のDECK 2のREC BALつまみを使って、左右チャンネルのバランスを調整します。
- スレーブ機はINPUTつまみおよびREC BALつまみの設定に関わらず、マスター機のDECK 2の設定に従います。
- 11** マスター機のDECK 2のPLAYキーを押して、録音を始めた後、入力ソースをスタートさせます。
- マスター機のDECK 2がテープエンドに達しても、スレーブ機のテープが残っていれば、そのままテープエンドまで録音を続けます。
- 12** すべてのデッキがテープエンドで停止したら、もう一度、マスター機のDECK 2のRECORDキーを押しながらPAUSEキーを押して、すべてのスレーブデッキを録音一時待機状態にします。
- 13** マスター機のDECK 2のPLAYキー（◀キー）を押して、すべてのデッキを"◀"方向に切り換えます。
- 14** マスター機のDECK 2のPLAYキーを押して、B面（裏面）の録音を始めた後、入力ソースを再度スタートさせます。

#### ダビングを途中で止めるには

マスター機のDECK 2のSTOPキーを押します。

## その他の便利な機能

### 録音ミュート機能

録音中または録音待機中にRECORDキーを押しながらSTOPキー（またはリモコンのREC MUDEキー）を押すと、約4秒間無信号を録音することができます。

- 録音ミュートを途中で止めるにはSTOPキーを押します。
- 約4秒間無信号を録音した後は自動的に一時停止状態になります。

### RTZ (Return To Zero) 機能

テープ走行モードに関わらず、RTZキーを押すとテープカウンターの [0000] 付近までテープを早巻きした後停止します。


- RTZを途中で止めるにはSTOPキーを押します。
- RTZの途中（テープ早巻き中）でPAUSEキーを押すと、テープカウンターの [0000] 付近まで早巻きした後、再生待機状態になります。
- RTZの途中でPLAYキーを押すと、テープカウンターの [0000] 付近まで早巻きした後、再生を始めます。
- テープカウンターが [0002] 以下を示している場合は、RTZ機能が動きません。

### CPS (Computer-controlled Program Search) 機能

曲をサーチして頭出しする機能です。

曲間などの無音部分を検出してサーチを行います。

テープの現在位置を基準にして、前後15曲までサーチできます。

- 1** 停止中、再生中、再生待機中にCPSキーを押すと、CPSモードになります。
  - 2** CPSキーを何度か押して、サーチする曲数を設定します。  
テープカウンターに曲数が"CP01"のように表示されます。
  - 3** ◀方向にサーチするときは、REWキーを押します。  
▶方向にサーチするときは、F FWDキーを押します。  
無音部分を検出する毎に、テープカウンターの曲数が減ってゆきます。サーチが完了すると、自動的に再生が始まります。
- REV MODEスイッチを  側にしておけば、両面に渡ってサーチを行えます。
  - リモコンから操作する場合、CPS (◀▶▶▶▶) キーを押すと同時にサーチが始まります。前後2曲以上の曲をサーチするときには、続けてCPSキーを押してください。

# メンテナンス

## クリーニング

### ヘッド

カセットデッキのヘッドは、使用中にテープの磁性粉、ごみやほこりなどが付着して表面が汚れます。このために、走行するテープとヘッドとの接触状態が悪くなり、性能が十分に発揮できなくなります。高音域の音が出ない、ドロップアウト（音飛び）を起こすなどは、典型的な症状です。

できれば使用の度にクリーナー液（TEAC TZ-261のA液）を綿棒に含ませてクリーニングしてください。

### キャプスタンとピンチローラー

キャプスタンはテープの走行性能を左右する部分です。使用中にテープの磁性粉、ごみやほこりなどが付着するとワウフラッター（音の震え）やテープ巻き込みの原因になります。

キャプスタンのクリーニングには、TEAC TZ-261のA液を、ピンチローラーのクリーニングには、TEAC TZ-261のB液をお使いください。

## 消磁

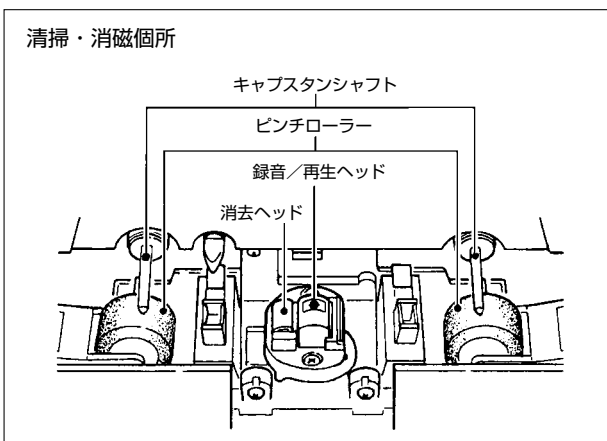
カセットデッキのヘッドは、長時間使用するまたは帯磁したものに触れると、磁化されることがあります。

ヘッドが磁化されると、周波数特性（特に高域）の劣化、雑音レベルの増加そして大切な録音済みテープに雑音が記録されてしまうこともあります。帯磁したドライバーやはさみをヘッドに接触させたり、ヘッドの導通を計るために直流電流を流したりは、絶対に行わないでください。

ヘッドが磁化された場合は、ヘッドイレーサー（TEAC E-3など）で消磁してください。ヘッドの帯磁は汚れなどと異なり目に見えないので、定期的な消磁することをお勧めします。ヘッドのクリーニングと合わせて行うとよいでしょう。

### ヘッドの消磁方法

1. 本機の電源を切ります。
2. ヘッドイレーサーの電源を入れます。
3. ヘッドに近付けます。
4. ヘッドの表面をゆっくり数回上下させます。
5. ヘッドイレーサーをヘッドからゆっくり遠ざけます。



# トラブルシューティング

## トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
連続録音、再生ができない	REV MODEスイッチが  (片面録音) または  (両面録音) 側に設定されている	REV MODEスイッチを [CONT] 側に切り換えてください
	MSTR, SLVスイッチが [MSTR] または [SLV] 側に設定されている	MSTR, SLVスイッチを [OFF] 側に切り換えてください
音質が悪い	ドルビーNRスイッチの設定が間違っている	ドルビーNRスイッチを録音時の設定に合わせてください
	INPUT ヘッドやピンチローラーが汚れている	TEAC TZ-261のA液とB液を使ってクリーニングしてください
	ヘッドが帯磁している	TEAC E-3で消磁してください
録音できない	テープの誤消去防止つめが折れている	テープの誤消去防止つめ部分をセロハンテープなどでふさいでください

## エラーメッセージ

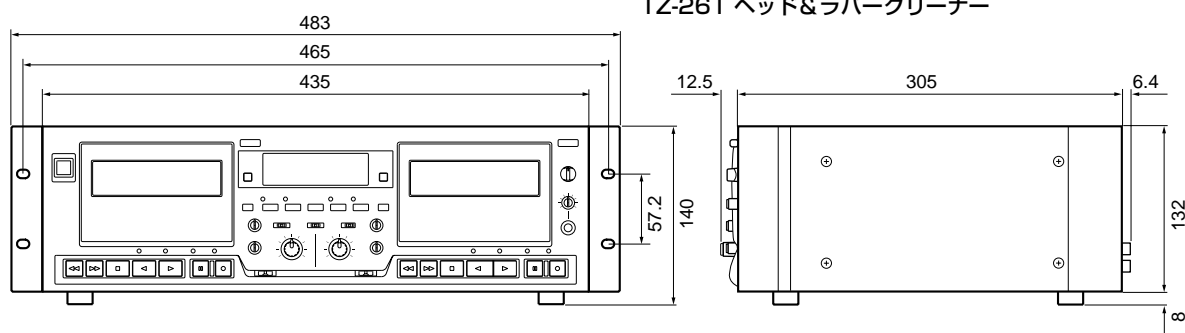
エラーメッセージはテープカウンターに表示されます。

エラーメッセージ	原因	対処
Err2	2台以上の322をマスター機、スレーブ機の関係で使用しているときに、322間の通信が正常に行われなかった	各スイッチの設定を確認してください
Err3	2台以上の322をマスター機、スレーブ機の関係で使用しているときに、EXT CONTROL端子の接続が正しくない	EXT CONTROL端子の接続を確認してください

## 定格

使用テープ：	C-30～C-90カセットテープ (Normal, High Position, Metal)
トラック形式：	4トラック、2チャンネル
ヘッド構成	
録音再生ロータリーヘッド：	(DECK 1 X 1, DECK 2 X 1) (パーマロイ)
消去ヘッド：	(DECK 1 X 1, DECK 2 X 1) (フェライト)
モーター構成	
キャプスタンモーター：	DCサーボモーター (DECK 1 X 1, DECK 2 X 1)
リールモーター：	DCモーター (DECK 1 X 1, DECK 2 X 1)
テープ速度：	4.8 cm/sec., 9.5 cm/sec. (ハイスピードダビング時)
ピッチコントロール：	±約 10%
ライン入力	RCAピンジャック
規定入力レベル：	-10 dBV (0.3V)
最小入力レベル：	-18 dBV (0.1V)
入力インピーダンス：	24 k $\Omega$
ライン出力	RCAピンジャック
規定出力レベル：	-5 dBV (0.6V)
出力インピーダンス：	1.5 k $\Omega$
カスケード出力	RCAピンジャック
規定出力レベル：	-10 dBV (0.3V)
出力インピーダンス：	100 $\Omega$
ヘッドホン出力	$\phi$ 6.3 mm ホンジャック
最大出力：	最大 7 mW / 32 $\Omega$ 負荷
バイアスおよび消去周波数：	100 kHz
再生イコライザー：	ハーフ自動検出 3,180 $\mu$ s + 70 $\mu$ s (High Position, Metal) 3,180 $\mu$ s + 120 $\mu$ s (Normal)
基準録音レベル：	250 nWb/m 315Hz [レベル ルメーター= 0 dB]
EXT CONTROL 端子：	$\phi$ 3.5 mm ミニジャック
REMOTE IN (FROM RC-322A) 端子：	$\phi$ 2.5 mm ミニミニジャック
REMOTE IN (SERIAL) 端子：	RS-232C

## 寸法図



電源：	100 VAC, 50 – 60 Hz
消費電力：	33 W
外形寸法：	483 × 140 × 323.9 mm (幅×高さ×奥行き)
質量：	7.8 kg

## 定格

テープ速度偏差：	± 3.0%
ワウフラッター：	0.15%以内 [JIS WRMS]
早巻き時間：	約 120 秒以内 [C-60 使用時]
総合周波数特性：	63 Hz～18 kHz ± 3 dB JEITA (Metal) 63 Hz～16 kHz ± 3 dB JEITA (High Position) 63 Hz～16 kHz ± 3 dB JEITA (Normal)
歪み率：	2.5%以下 1 kHz 160nWb/m (Metal)
SN比：	59 dB (NR Out 3% THD レベルWTD) (Metal) 69 dB (Dolby B NR In CCIR ARM) ノイズレベル 79 dB (Dolby C NR In CCIR ARM) ノイズレベル
チャンネルセパレーション：	30 dB以上 (1 kHz) ノイズレベル
消去率：	65 dB以上 (1 kHz) ノイズレベル

- 仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 本機はドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。
- HX プロはバングアンドオルフセンの考案です。

## 別売アクセサリ

## LA-322 バランスアンプキット

バランスタイプ入出力端子の追加キットです。

## WR-7000 シンクケーブル

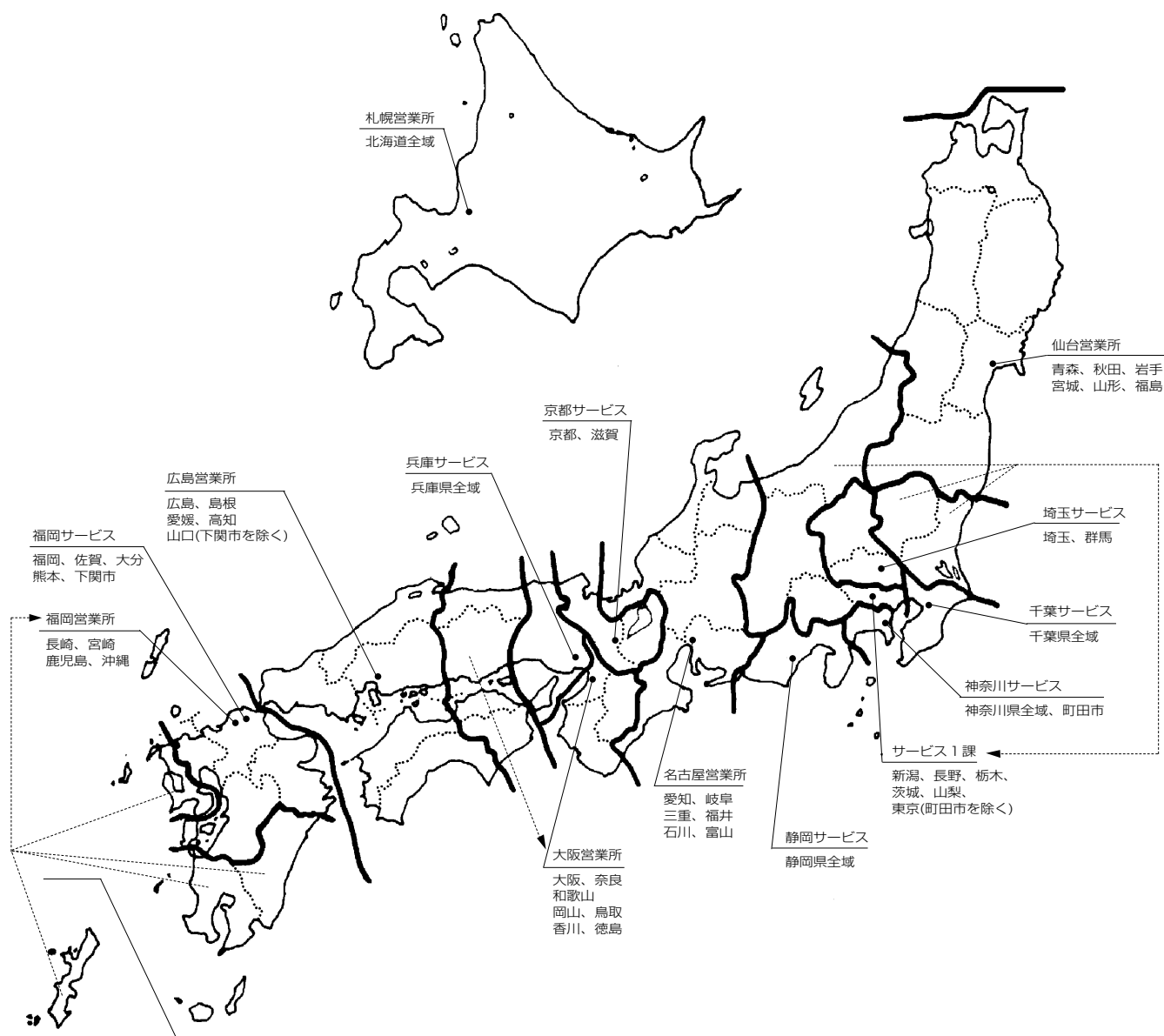
322を2台以上お使いになる場合に、EXT CONTROL 端子間を接続します。

## AV-P2500 AC パワーディストリビューター

## E-3 ヘッドイレーサー

## TZ-261 ヘッド&amp;ラパークリーナー

# TASCAM サービスエリア



## ティアック株式会社

タスカム部 ☎ (0422)52-5072 / FAX (0422)52-6782 〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

技術的なお問い合わせ

タスカム営業技術 ☎ (0422)52-5106 / FAX (0422)52-6782 〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

アフター・サービスに関する  
お問い合わせ

札幌営業所	☎ (011)521-4101(代)	〒 064-0807	札幌市中央区南7条西2-2 くぼたビル
仙台営業所	☎ (022)218-0007(代)	〒 981-3135	仙台市泉区八乙女中央3-2-30 リバーサイドビル及川
埼玉サービス	☎ (048)642-4551	〒 331-0052	さいたま市三橋2-846
サービス1課	☎ (0422)52-5107	〒 180-8550	東京都武蔵野市中町 3-7-3
千葉サービス	☎ (043)255-1281	〒 260-0042	千葉市中央区椿森1-21-13 清水ビル
神奈川サービス	☎ (042)746-6850	〒 228-0803	相模原市相模大野7-14-9 グリーンシティビル
静岡サービス	☎ (054)238-2431	〒 422-8034	静岡市高松1-12-1 寿道ハイツ105号
名古屋営業所	☎ (052)702-3100(代)	〒 465-0025	名古屋市中区上社5-406
京都サービス	☎ (075)871-8730	〒 616-8224	京都市右京区常盤窪19 西垣ビル
大阪営業所	☎ (06)6384-5201(代)	〒 564-0062	吹田市垂水町3-34-10
兵庫サービス	☎ (072)755-1002	〒 666-0004	兵庫県川西市萩原1-11-29
広島営業所	☎ (082)294-4751(代)	〒 730-0846	広島市中区西川口町13-19
福岡営業所	☎ (092)431-5781(代)	〒 812-0008	福岡市博多区東光2-2-24
福岡サービス	☎ (092)957-2050	〒 811-2107	福岡県糟屋郡宇美町とびたけ3-7-12

■上記営業所にはサービス・センターを併設しています。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日を除く 9:30～12:00/13:00～17:00です。

■住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。 <http://www.teac.co.jp/tascam/>